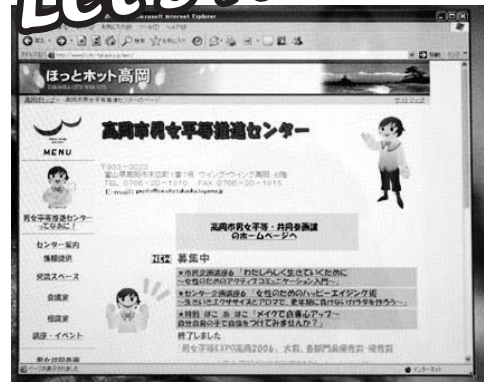


Let's Access!! なんしとっか見てみてはい!!



こんなところをクリック!してみよう。

相談室 悩みがあるようでしたら、のぞいてみてください。連絡先や、要領などが載っています。

**「ありて」、
「ありて
めいと」** 最新情報や活動報告を掲載した情報紙「ありて」、「ありてめいと」がこちらから閲覧できます。いろんな方向から男女平等について考えています。バックナンバーも豊富ですので、ぜひ一読してみてください。

リンク集 リンク集から、こんなホームページへ遊びに行ってみても楽しいかも？

富山県民共生センター サソフォルテ

富山県の男女共同参画社会を目指す、私たちの強い味方です。県全体をカバーするホームページなので、情報や登録団体也多岐にわたっています。ぜひのぞいてみてください。また大きな講座には有名人も来たりしますから、チェックはおこたらずに。



福岡町「つくりもんまつり」に参画

テーマは「子供の世界で」で「あんばんまん」を秋の収穫物で作りました。今回、高岡市との合併を機に、福岡町の推進員に高岡市の推進員が加わり、伝統300余年の「つくりもんまつり」に参画し五穀豊穡を感謝しました。



「男女平等EXPO高岡」が開催されました。

串田 幹夫（西条校区推進員）

11月4日に『男女平等EXPO高岡2006』の表彰式と、KNBアナウンサーの相本芳彦さんの「男（わたし）の子育て論」というテーマで、講演会が開催されました。講演会後の「子育て談義」では、会場と講師の巧みな話術で子育てについて意見の交換がなされ、たいへん有意義な時間でした。

5月30日に実行委員の依頼を受け、副実行委員長という大役まで仰せつかり、合計8回の実行委員会が開催され、表彰式当日を迎えました。当日は、高岡連絡会をはじめ、各種団体から大勢の皆さんにご来場いただき大成功のうちに終わることができ、本当にありがとうございました。詳しい内容や、当日の様子などについては、大変すばらしい中身の濃い報告書がありますので、「高岡市男女平等推進センター（ウイング・ウイング6階）」又はHPで確認してみてください。



編集後記

推進員になって3年が過ぎようとしています。私たち推進員、最初はみんな何も知らなかったし、分からなかった。

でも、定例会、講習会等で学んでいくうちに、男女共同参画は自分たちの子供のためにも、とても大切であることに気づき、自分自身の生き方を見直す良い機会だと感じる今日この頃です。

この広報誌を通じ、皆様に、男女共同参画の大切さが少しでもお伝えできればと思っています。 太田 正樹（中田校区推進員）



シンボルマーク説明

この広報誌の表紙に使用されているシンボルマークは1975年（昭和50年）、『平等・平和・開発』をテーマに国際婦人年世界会議の開催にあたり作成されました。

「平和の象徴の鳩・生物学上の女性記号（♀）・数字の等位記号（=）」をデザイン化したもので、アメリカのウィレィ・ベティス女史の作品です。



平等・開発・平和

ともだち共立

第2号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会



初めて、推進員になって…

部長 藤田克司（戸出西部校区）

「おーい、お茶」「おーい、新聞」、そして掃除洗濯、食事は妻の仕事である。これを固く信じ生活して20年、何の問題もないと思っていた。こんな私が男女共同参画推進員になったのです。役員会、定例会に出るたびに抵抗を感じながら1年あまりが過ぎようとしています。しかし、最近では頭のほうも柔らかくなり、いろいろと考えられるように、なりました。

「女だからこうすべき」「男だからこうすべき」ということではなく、お互いがお互いを尊重しあい、責任も分かち合いながら、能力を発揮できるようになることが、男女共同参画なのです。そして、このことを推進していくことが、私たち推進員の仕事です。



意識変革の難しさ

副会長 梁瀬温子（大滝校区）

近年、急速な経済発展を続けるインドではあるが、感染症による死亡の割合が高いという。そこには、中間層や富裕層の間には「掃除は下位カーストの使用人がするもの」という根強い考えがある。感染症の発生は貧困層ではなく、自らの家を掃除しようとし、豊かになった中間層で多くなっている。インドは独立後、憲法でカーストに基づく差別を禁じた。60年経つが、事の折々にカーストが問題になるという。

一方、私たちの周りでは、7割の女性が就労している現在でも「家事は女性の仕事」という意識がまだまだ根強く残っている。生活の中に染み付いた慣習や意識を変えていくことは、どこにおいても大変困難なことのようだ。だが、この意識変革こそ「今後の発展を左右する」との考えを持つことが大切であると思う。

mini地区懇談会

2007年度は、市内全校区で男女平等・共同参画推進のための「ミニ地区懇談会」を開催します。

実り多い会になるように推進員全員張り切っています。

地域のみなさんのご協力をお願いいたします

（詳細は後日チラシ等でご案内いたします。どなたでも、どの会場でも参加できます。）

五位山	赤丸	西五位	大滝	山王	福岡	中田	戸出西部	戸出東部	石堤	千鳥丘	東五位	牧野	西広谷	国吉	太田	古府	伏木	野村	二塚	下関	万葉	能町	成美	木津	南条	博労	西条	川原	横田	平米	定塚	校下名
08年2月	08年2月	08年2月	08年2月	08年2月	07年11月頃	07年6月or8月	未定	07年10月or11月	未定	未定	未定	07年11月	未定	未定	未定	07年11月	08年2月	07年10月頃	未定	07年11月	未定	07年9月22日	07年12月1日	07年6月12日	08年2月	07年6月	08年2月	07年7月26日	07年10月	07年6月	07年6月中旬	開催予定日

気づき、まなび、ひろめる

市民企画講座 『男はつらいよ!?』 開催日: 11/18(step1,2)
12/ 2 (step3)

誰もが暮らしやすい「男女平等・共同参画社会」ってどんな社会？
男性推進員によるワークショップをとおりて、みんなで考えました！

step 1 男の本音ぶっちゃけトーク



どんなことで「男はつらい」と思うか、女性・男性それぞれの視点で書き出し、整理・発表しました。

step 2 こんなん やらんまいけ

ワークでの疑問

女性はいろいろ男性のことを、おもんばかりにいるが、男性自身は、あまりつらいと感じていない。本当に辛くないのだろうか。



アドバイザー: 斉藤正英さん
(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員)

逆き言は言えない、
メンツが大事…トホホ



講師: 早川和宏さん
(高岡法科大学助教授)

女性是个人的なことを社会的なこととして解決しているのに比べ、男性は問題を社会化せずにいると思われず。

疑問の回答

男性は男性のみを比較対象にしている為、誰でも同じと感じ、自分だけが辛いとは思っていない。本当に辛くないのか、つらいけど封じ込めているのかわからない。広く(マイノリティなどへの)想像力を働かせ、伝えることが大事!

step 3 みんなで やらんまいけ



参加者それぞれの体験などを話し合い、跡継ぎの問題など地方ならではの課題を確認できました。

講座の感想〈アンケートより〉

- ・納得できる部分が多く、楽しくお聞きすることができました。
- ・男もつらいし女もつらい。でも楽しいこともある。結局同じだね…
- ・感謝する気持ちや言葉は大切です。 etc……

step 4 こんどは、読んでいるあなたと語らんまいけ!

「男女共同参画フォーラムinとやま」&「イブニング・トークinたかおか」

田中 桂子 (伏木校区推進員)



「ともに築き輝く男女共同参画社会の実現」をメインテーマに「平成18年度男女共同参画フォーラム・インとやま」が、11月1日と2日の両日にわたって開催されました。初日は「人生100年、すべての人に居場所と出番」と題して、樋口恵子さん(評論家で大学名誉教授)による基調講演が行なわれ、その後の分科会は、全国各地からの参加者による貴重な意見交換の場となりました。2日目は、高岡高校演劇部の公演、前日の分科会報告と全体会、そして県出身の女優・剣幸さんの特別講演「自分らしさを求めて 私のチャレンジ」をもって閉幕しました。

また、フォーラム連携企画として「イブニング・トークinたかおか」が、樋口恵子さん、橘高岡市長もお招きして開催されました。“おりん”の音色とともにスタートし、高岡の活動紹介に続いて、10のテーマで県内外の参加者による活発な情報交換が行われました。高岡の女性のパワフルな生き方が樋口さんのコメントにより再認識されました。

mini地区 懇談会

下関校区ミニ地区懇談会を終えて 車谷 仁美 (下関校区推進員)

下関校下では、今年も「婦人学級」の一環として開催されました。グループに分かれて頂き「男女平等を考えるワークショップ」を行い、楽しく和やかな雰囲気の中にも、活発な意見交換が行われました。

懇談会を終えて、参加者より「男でも女でもお互い助け合い、思いやりをもつことが大切なのね〜」「今日は、楽しく男女共同参画を考える事ができて良かったわ〜」という声を頂戴し、推進員として、うれしく感じました。そして、これからも少しでも地域のために貢献していきたいと思いました。

ミニ学習会 男女平等の視点で学んでいます

10月18日

「男女平等を考えるワークショップ」アドバイザー 男女平等推進センター職員

「男でラッキー、女でラッキー」をテーマにワークショップ。男女それぞれの立場を、お互い思いやる事が、男女平等の第一歩と気づきました。皆さんもぜひ身近な方と「男性・女性」を語り合ってみてください。



11月15日 推進員の“お仕事”～法律から考える～
早川和宏さん 高岡法科大学助教授



条例や基本法の成り立ちを学び、暮らしの中からいろいろな法律が作られていることを知りました。高岡市男女平等推進条例は、すべての人々を尊重できるように作

れているとお聞きして、推進員として学んだことは自信を持って伝えていかなければ、という気持ちになりました。

12月20日 「働き方から考える男女平等」
中林晶子さん(NPO法人Iビバウマガア 助産師/自治労勤務)



今、正規雇用労働者と非正規雇用労働者の賃金・待遇面での格差が大きな問題になっています。そして社会的地位の低い女性の正規雇用率は男性よりはるかに低いのが現状です。非正規労働者の正規化を進め、女性の正規雇用

率を向上することは、「格差」という名の「差別」をなくすものです。そのためには、意識を変えたとともに、今までは自分を守るすべのなかった、臨時職員の声を力に変えていきたい、というお話でした。

高岡ブロック 地域別研修会

瀧澤 健治 (横田校区推進員)

日時 2月18日 13:30~16:00
場所 氷見市ふれあいスポーツセンター

高岡ブロック(射水市・高岡市・氷見市)の推進員約80名が集まっての研修会が開催されました。

公開講演会

前半は、長守信子さん(高岡市男女平等推進センター相談員)によるDV防止公開講演会「地域ぐるみでDV対策～被害者の立場に立った援助とは～」でした。DVの件数は考えていた以上に多く(H18年度10月段階での相談300件以上)、被害者は精神・身体・経済的な暴力を被り、その被害からなかなか逃れられず、また子どもへの精神的影響も計り知れないことを知りました。加害者は外見では判断できず、職業もさまざまと聞き、ことさら恐怖を覚えました。最も印象に残ったのは「加害者はほとんど治らないので、今後は加害者をつくらぬ教育が大切」ということでした。



分科会

後半は3つの分科会に分かれて、それぞれのテーマから男女共同参画社会を考える活発な話し合いとなりました。

高岡連絡会が担当した「女性の政治・社会参画」では、「女性議員ゼロ」となった氷見市の事例を手がかりに、「なぜ女性議員が少ないのか」忌憚のない話し合いがなされました。女性



たちの強い思いや、理想と現実のギャップを改めて知らされました。